主体的に学びに向かう生徒の育成
～ １人１台タブレット端末を活用した「学びとる」学習活動の実践 ～

熊本市立白川中学校

要　約

ＧＩＧＡスクール構想が打ち出され,本市でも１人１台のタブレット端末が配備された。授業がどう変わっていくのかイメージが持てずにいたが,子どもたちが主体的に学ぶために,1 人 1 台のタブレット端末を活用しながら,生徒が「学びとる」ことができるような学習活動の研究実践に取り組むことにした。各教科においても,特別活動においても,協働的な学びの場で,「タブレット端末を生徒主体の授業に活用していく。」という共通意識のもと,実践を積み重ねた結果,生徒が主体的に学びに向かう力を高めていった。

＜キーワード＞　主体的に学ぶ力　１人１台タブレット端末　学びとる　協働的な学び　対話

１　主題設定の理由

熊本市では,教師主導の授業から子どもが「学びとる」授業への転換を図っている。本校の生徒の多くは,落ち着いて授業に向かい,教師の指示をよく聞き,与えられた課題に熱心に取り組んでいる。しかし,自らが課題意識を持ってその解決に励むといった学び方や自らの学びを振り返り,次の学びに生かすといった学び方を身につけている生徒は少ない。見方を変えれば,私たちが今まで行ってきた授業は,「子どもが主体的に学ぶ力をつける授業」になっていたかと考えさせられた。

折しも,ＧＩＧＡスクール構想が打ち出され,本市においても１人１台のタブレット端末が配備された。本校は２０２０年度より,タブレット端末活用研究推進モデル校となった。授業がどう変わっていくのかイメージが持てず,タブレットの使用に関しても不安はぬぐいされないものがあった。話し合いを重ねる中で,タブレット端末を使えばいいというのではなく,「子どもが主体的に学ぶ」ための必要な道具として活用していくという共通意識を持つことが大事であろうという考えに至った。

そこで,本校では「主体的に学びに向かう生徒の育成～1 人１台タブレット端末を活用した「学びとる」学習活動の実践～」をテーマとして研究を進めることにした。

２　研究の視点

本校では「主体的に学びに向かう生徒」とは次のように捉えている。

・見通しを持ち,自分で手順や方法を考えて学習を進めようとしている。
・自ら課題を見出し,仲間と協働しながら,情報を収集したり批判的に考えたりしながら解決しようとしている。
・自らの学びを振り返り,次の学習に生かしていこうとしている。また,調べたことや解決したことをもとに新たな問いを持ち,解決しようとしている。

また,副題にある「学びとる」とは次のような学び方を示し,授業やその他の学習活動の中でこの学び方を身につけていくと「主体的に学びに向かう生徒」は育成できると考えた。

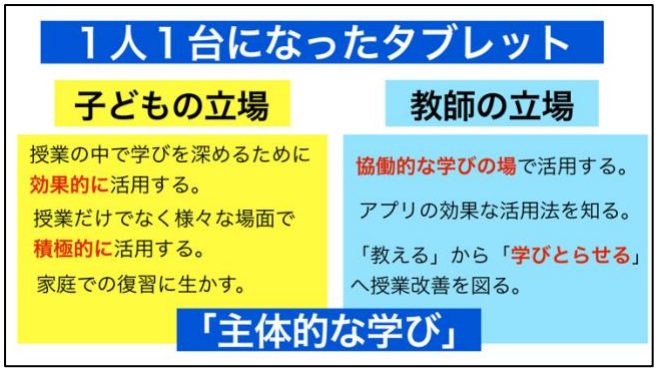
①自分で問題意識を持って,めあてや課題を設定する。

②対話で自分の考えを深め，課題を解決しようとする。（アウトプット）

③自らの学びを振り返る。

特に，協働的な学びの中で，１人１台のタブレット端末の効果的な活用を模索していくことで，「生徒の主体的で対話的な学び」の実現に迫りたい。

１人１台のタブレット端末をどのように活用していくか図１のように整理した。生徒，教職員ともに図１のような活用をしながら，次の視点で実践を図った。



【図１　１人１台タブレット端末の活用法】

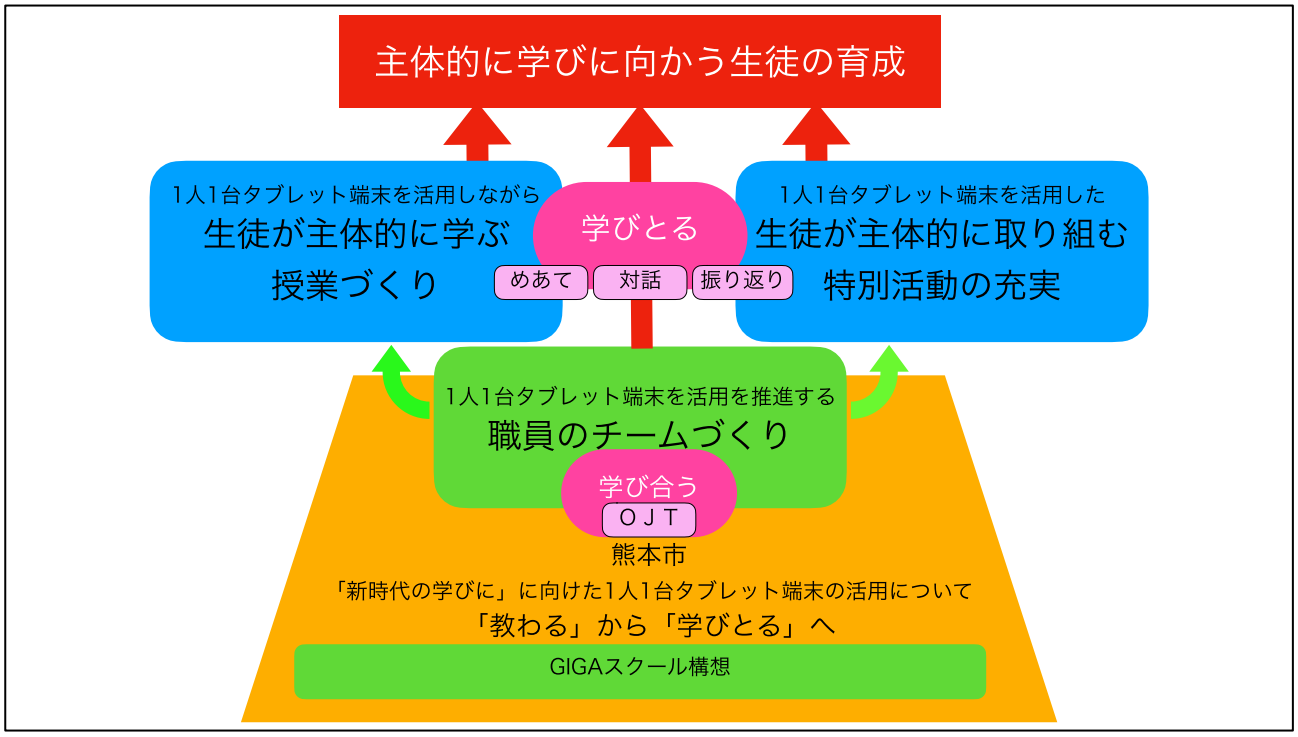
視点１　**１人１台タブレット端末を活用しながら生徒が主体的に学ぶ授業づくり**

「学びとる」授業への転換を目指し，「めあて・課題設定」「対話」「振り返り」で効果的なタブレット端末の活用を図りながら授業づくりを行う。

視点２　**１人１台タブレット端末を活用した生徒が主体的に取り組む特別活動の充実**

生徒会活動や委員会活動，学級活動，部活動，学校・学年行事などは生徒が集団生活を送るうえで，重要な意味を持つ。生徒の発想や工夫を大切にしながら特別活動を充実させていく。

３　研究の構想図



【　図２　研究構想図　】

４　研究の実際

視点１　１人１台タブレット端末を活用しながら,生徒が主体的に学ぶ授業づくり

生徒が主体的に学ぶ授業にするために,特に次の３点について１人１台のタブレット端末を活用しながら,授業づくりを行った。

・生徒が主体的に学ぶための学習課題の設定【 めあて・学習課題 】
・協働的な学びや対話的な学びを取り入れた学習活動の工夫　【 対話 】
・自らの学びを実感できる振り返りの場の設定【 振り返り 】

<実践 1> 図を操作しながら説明し合うことで,対話が活発化

中学３年生　理科　「酸・アルカリと塩」
【目標】中和のようすについて，イオンのモデルを使って説明することができる。

（１）　研究の視点に基づく授業の実際

①【 めあて・学習課題 】

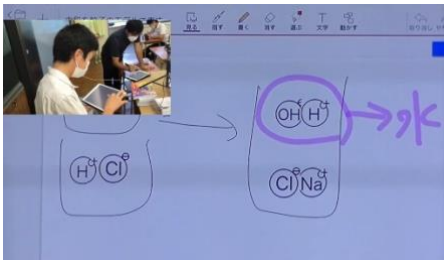
ICT を活用し,生徒実験や写真,映像などを提示し,自然事象と合わせて考える中で，理科の見方を働かせながら，化学変化に対する疑問や課題を見出させた。本授業では,身の周りで使われている中和について生徒が調べたことをロイロノートを使ってクラス全員で共有し,それをもとに課題を設定した。

【図 3-1　MetaMoJi を使い個人で考えを持つ】

②【 対話 】

MetaMoJi は複数の生徒が同じシートに同時に書き込んだり,同じシート上で図を操作したりすることができる。その機能を活用しながら化学変化に対する理論的な考えを交流した。まず,個人で塩酸と水酸化ナトリウム水溶液の中和のようすを(図 3-1）のように,イオンのモデルを使って考えた。次に,MetaMoJi で共同作業を行いながら,班で意見を出し合い,考えを深めた（図 3-2）。教師はモニタリングをして,その状況に応じて,個人や班に適切に助言や支援をするようにした。全体で意見を交流する際も生徒は自分のタブレット端末でイオンのモデルを操作しながら,説明する姿が見られた（図 3-3）。他者との関わりの中で,自分の考えをより深めていくことができた。

【図 3-2　班で考えを伝え合う】



【図 3-3　自分のタブレット操作しながら全体で説明】

（２）　授業後の考察

ＩＣＴを使うことによって,生徒の自由な発想を生かしてイオンのモデルの操作をすることで,多様な考えを持つことができた。理科の学習を苦手としている生徒は,同じ班の人が動かしながら説明する考えを聞いて,それを生かして自分の考えを整理していた。教師は生徒の考えを全員同時に把握することで,適切な助言や支援を行い,生徒の主

体的な学びの手助けをすることができた。生徒の振り返りの中には「○○くんの説明する意見を聞いて,気づかされることがあった。」「あまり,イメージの湧きにくかったイオンについて,モデルを操作することで中和の仕組みについて理解できた」という記述が見られた。

<実践２>　自他の考えを可視化して,議論を深める。

中学１年生　道徳「バスと赤ちゃん」
主題名【社会の中の思いやり】　内容項目【B　思いやり,感謝】
【ねらい】相手の想いを察した思いやりの心について理解し,思いやりや感謝の気持ちをもち,相手の立場に立って行動しようとする態度を育てる。

（１）　研究の視点に基づく授業の実際

①　【めあて・課題設定】

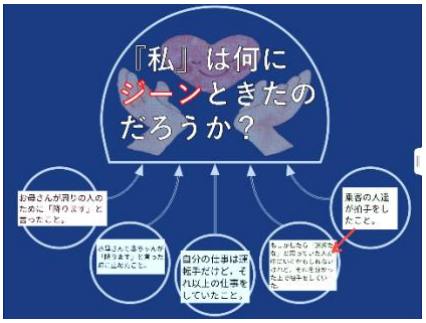
導入では,ロイロノートのアンケート機能を活用して,学校生活や地域の中で,思いやりの心を持った行動ができているのかを振り返り,課題を焦点化した（図４）。ロイロノートのアンケートはグラフ化まですぐにでき,効率よく資料の提示ができる。生徒たちはクラスの中では思いやりのある行動ができるのだが,社会の中ではできない自分がいることに気づいた。

【図４　ロイロノートを活用したアンケー結果の提示】

②　【 対話 】

ロイロノートは意見の共有が瞬時にでき,協働的な学びに活用できる。また,シンキングツールを使うことで,思考を可視化でき,新しい考えを作り出すような場でも便利である。本校では道徳の授業など自分の考えを示したり,整理したりする際,よく用いてきた。

本時では,「この出来事から,『私』は何にジーンときたのだろうか。」という主発問に,ロイロノートのシンキングツールを活用して,自分や友達の考えを可視化した（図 5-1)。さらに,班や全体で共有させることで,ねらいについて対話を生み出し,思考を深めることができるようにした。自分と友達の考えを比較したり,まとめたりすることで,対話的な学びが促進された（図 5-2)。個人の考えを班や全体に広げ,様々な立場から捉えることで,多面的・多角的に考えることができた。



【図 5-1　シンキングツールで自分の考えを可視化】

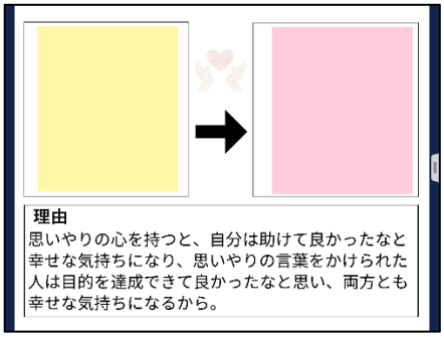
【図 5-2　シンキングツールを使って話合い】

③　【振り返り】

導入時のアンケートと比較して,今の気持ちや変容をロイロノートの色カードで表すことができるようにした。全体で共有した際も色カードで示しているので,その変容がわりやすい（図６）。教師は意図的に指名すること

ができ,その理由を全体で紹介した。

さらに,学習を通して感じたことや考えたことを自分の生活を振り返りながら,ロイロノートのシートに記入した。相手の立場に立って行動しようとする気持ちが芽生えた振り返りが見られた。



【図６　気持ちの変容を色カードで示す】

（２）　授業後の考察

ロイロのアンケート機能を使うことで,時間的にも効率よく課題意識を持たせることができた。意見が可視化できているので,話し合いのときの自分や友達の考えを比較でき,対話的な活動も活発に行われた。色カードで生徒の変容が一目見てわかり,生徒自身も自分の気持ちの変容が自覚できた。学習を通して「考え方や見方を変えると,それぞれの立場もわかるし,日常にある答えは一つではないことに気づいた」と振り返っていた。実際に,おばあちゃんの道案内をして生徒もいた。

<実践３>調べたことから課題を設定し,協働してその解決にあたる,「学びとる」授業の実践

（１）　研究の視点に基づく授業の実際

中学２年生　社会「近畿地方～歴史の背景を中心に考えよう～」
【目標】京都のまちづくりの学習を通して,歴史的なまち並みを保全しながら暮らす京都市民の思いについて理解を深める。

①　【 めあて・課題設定】

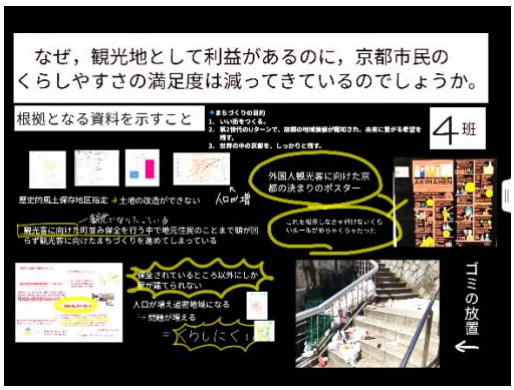
近畿地方の魅力を調べて発見し(図７),生徒とともに学習課題を設定することで意欲を喚起した。修学旅行で京都にただ観光で訪れるのではなく,京都の人たちのこれまでの苦労,思いに触れて,京都での自主研修を充実したものにするというねらいもあり,学習への意欲はさらに高まった。資料を具体的に提示して見通しを持たせるとともに,生徒が主体的に調べるための課題を共有した。

【 図７　生徒が調べたことをもとに課題設定　】

②　【 対話 】

まず,個人で調べたことをロイロノートでまとめ,グループ内で発表して共有する。そこで生まれた「なぜ,観光地として利益があるのに,京都市民のくらしやすさの満足度は減ってきているだろうか」という問いに対して,自分たちで関連する情報を集め,提示された資料,既習事項なども活用しながら,解決に向けて話合いを行った（図 8-1）。さまざまな資料の中から根拠を見出し,活発に意見の交流をしながら,それを効果的に表現してまとめた（図８-２）。全体で意見を共有していく中で,生徒の中から新たな問いが生まれ,対話によりさらに学びを深めていった。

【図８－１　対話による意見の交流】



【図８－２　生徒が作成した資料　】

③　【振り返り】

その時間の学びや気づきをロイロノートのカードに記述し，蓄積していった。単元全体の学習過程を振り返る際に活用し，生徒自身が自らの学びを実感できるようにした。観光地である京都で暮らす人々の思いや，修学旅行に行く理由など多角的に振り返る記述が見られた。

（２）　授業後の考察

近畿地方の魅力ある写真を生徒自らロイロに提示し，共有化することで，生徒とともに単元のゴールを設定した。単元のゴールを設定したことで，毎時間の授業でもそのゴールを意識しながら授業を行い，単元を貫いた学習ができた。

また，京都市民，観光客，市の立場から，調べ学習を行い，ロイロノートのシンキングツールを活用することで，京都のまちづくりについて多面的・多角的に学ぶことができた。

さらに，振り返りシートをロイロノートで提出することにより学びが蓄積され，１時間の授業で課題解決が終わるのではなく，修学旅行などにもつながることで問い続けていくような授業になった。

〈実践 4〉　協働的な学びの中で，自他の振り返り，学びを実感。

中学１年生　国語「話の構成を工夫しよう～自分の好きなものを紹介しよう」
【目標】自分の伝えたいことを聞き手に興味を持って聞いてもらえるように，内容や構成，話し方を工夫して，スピーチすることができる。

（１）研究の視点に基づく授業の実際

①【 めあて・学習課題 】

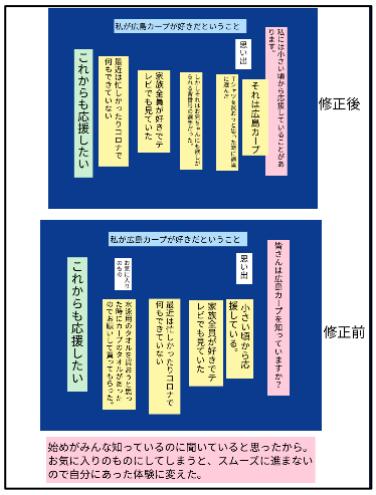
スピーチでは生徒が伝えたいと思うような題材の設定が重要である。本授業では目的意識相手意識を明確にし，「自分をより深く知ってもらうため，自分の好きなものを紹介しよう」というテーマで，クラスの友達に向けてスピーチすることにした。自分にまつわる意外性のあるもの紹介していく。聞き手を意識したスピーチの構成，話し方の工夫を身につけることをねらいとした。

②【 対話 】

3 人を 1 チームとして構成し, チームで撮影したり, 評価したりして, 協働的な学びの中で, スピーチを練り上げていった（図 9）。

スピーチの構成表はロイロノートで作成した（図 10）。カードで話す内容を組み立てているので, 入れ　替えや付け加えも容易にできる。構成に目を向けるために, 2 つスピーチを例にあげて比較し, それから得た気づきを自分のスピーチの見直しに生かした。チームでは互いの構成表についてアドバイスを行い, 積極的に自分のスピーチへ取り入れたりする姿が見られた。

【図 9　3 人 1 チームでスピーチの練り上げ】



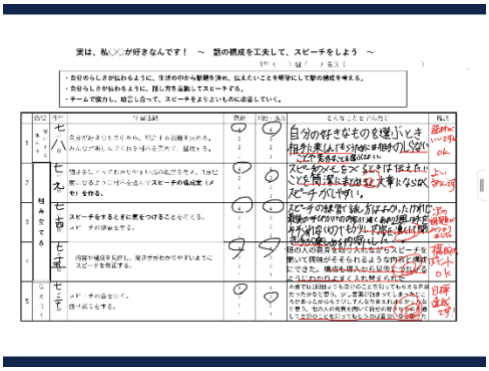
【図 10　生徒が作成した構成表
修正前と修正後を比較　】

③【 振り返り 】

小学校での既習事項やモデルスピーチをもとに, 生徒とともにルーブリックを作成した（図 11）。 生徒自身が作成したことで, 目指す姿が明確になり, スピーチの質が高まった。また, 話の構成や内容, 撮影した自分の練習スピーチや友達のスピーチを客観的に評価し, 学びを確かめることができた。毎時間行った振り返り（図 12）はロイロノートに記入した。次時への意欲づけや課題となった。

スピーチ ルーブリック評価	評価 A	B	C
声の大きさ 発音	後ろの人にも聞こえる大きさ 強弱をつける はきはきとした声で話す	みんなに聞こえるくらい声の大きさや発音	Bに到達しないもの
表情・視線	聞き手の反応を見て話す。笑顔(緩笑み)で目を見開く。ピシッと姿勢をよくする。	聞き手を見て話す。まじめな表情で話す。	Bに到達しないもの
間の取り方	スピーチの途中で聞手の反応を見て入れる。（思いで意を強うくらいの間）効果的に間を取れている	句読点のところで間を置ける	Bに到達しないもの
話す速さ	聞き手が聞き取りやすい速さ（早く速度にならないくらい）	聞き取れるくらいの速さ	Bに到達しないもの
内　容	好きなもの、好きなことを通して聞き手にそれらもしくは好奇心を持 聞き手に興味を持ってもらえる内容。聞き手にとって、自発的や聞きたい気持ちがある	好きなこと・好きなものを通してその人らしさが伝わる内容	Bに到達しないもの
構　成	話の流れがスムーズである。興味を引く導入である	話の流れがスムーズである。興味を引く導入である	Bに到達しないもの

【　図 11　生徒とともに作成したルーブリック】



【　図 12　振り返りカード　】

（2）　授業後の考察

話すこと・聞くことの学習においては, 自己評価なども含めて主体的な学びに, 1 人 1 台のタブレット端末は有効に活用できることがわかった。特に, 自分のスピーチを客観的に評価することができるは大きな効果である。構成表をロイロノートで作成したことで, 比較や練り直しが容易にでき, 学びが深まった。

生徒の振り返りの中に「スピーチの構成の仕方をつかめた気がする」「練習を録画して，アドバイスをもらい，本番では全く違うスピーチになった。班の人と話し合うことで（不要な部分が）上手く削れた」と自分の学びを実感している記述が見られた。

〈実践５〉　その他の実践

①　タブレット端末を用いて，学ぶ意欲を喚起する学習課題の設定

２年　英語　「You Can Do It　わが町観光プランをおすすめしよう。」

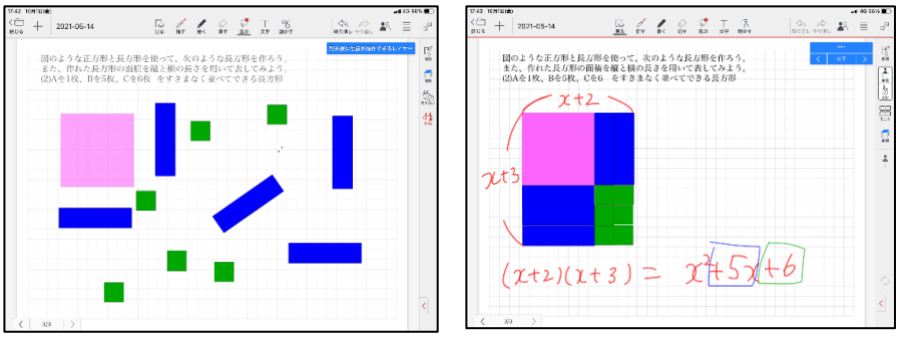
新しく赴任するＡＬＴにロイロノートを使って，熊本を好きになってもらうことを目的として熊本県内の観光地を紹介した。目的や相手が明確なので，生徒たちは積極的に取り組んだ。

【図 13 - 1　ロイロノート作成した紹介カード】

【図 13 - 2　カード一覧】

３年　数学　式の展開と因数分解

MetaMoJi の図形を操作できることを使い，式の展開の導入を行った。図形を操作しながら，考えるので，協働的な学びの中で多様な説明が生まれた。数学を苦手としている生徒も図形を動かしながら試行錯誤でき，実際に動かしながら説明するのを聞けるので，わかりやすかったようだ。これからの学習の意欲付けになった。

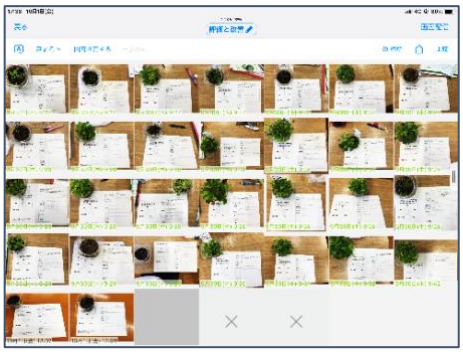


【図 14　MetaMoJi の操作画面　】

②　タブレット端末を生かした対話的な学び

１年　技術　ベビーリーフコンテストをしよう

分散登校期間中に行われた授業である。登校した日にベビーリーフの種をまき，ロイロノートで成長の記録を残した（図 15）。その記録を共有しオンライン授業ではブレイクアウトルームで，登校時には班でよりよい生育方法について話し合いを行い，自分の栽培に生かすことができた。タイムラプスでベビー



【図 15　成長の記録を共有　】

リーフ成長の記録する生徒もおり，主体的な学びが見られた。

1年　理科　いろいろな気体とその性質

理科ではタブレット端末を使って実験の様子を動画に撮ったり結果を共有したりしている。ロイロノートのシンキングツールを使って結果をまとめたり，それをもとに話し合いをしたりすることができ，協働して結論を導き出すことができた。実験が失敗してしまったり，考察を別の時間にしたりする場合でも，実験の記録（図16）を動画で残しておくことで確認するときに役立った。

【　図16　実験の結果　】

3年　道徳　「二通の手紙」

この後の出来事に関わりのある人を生徒と挙げ，7つの立場から「元さん」の行動について考えた。カードを色分け（図17）し，ロイロノートの資料箱から分担した立場のカードを取り出して書き込み，それぞれの立場で話し合い考えを深めた。その考えを出し合うことで，多角的に考えることができた。

【図17 立場を色わけして対話　】

③　自らの学びを実感する振り返り

1年　体育　マット運動　・　3年　体育　剣道

体育の授業では，自らの動きを客観視させるため，タブレット端末を活用して振り返りを行っている。自分の動きを見ながら，自分の動きを修正したり，次時への課題を設定したりする。

「マット運動」の授業では，動画を互いに撮影し，アドバイスを行った（図18）。

剣道の授業では，動画で撮影することにより，動きをイメージしやすくなった。生徒は，スローモーション機能を使って，足だけの動きを撮影したりして，全体の動きと部分的な映像を見ながら，より良いイメージをインプットして，自分の動きを修正することができた。

動画を見直してできるようになった喜びを感じ，単元の終末でも，自らの学びを実感することができた。

【 図18 マット運動　】

視点２　１人１台タブレット端末を活用して生徒が主体的に取り組む特別活動の充実

１人１台タブレット端末の活用は，授業だけにとどまらない。生徒自身の工夫とアイデアを生かし，学校生活のあらゆる場面で，タブレット端末が効果的に活用されている。

以下は，生徒が主体的に取り組んでいるタブレット端末を活用した実践である。

（１）生徒が起案し，主体的に取り組む生徒会活動・委員会活動

①　オンラインで，双方向で行う生徒総会

生徒会執行部が特別教室スタジオから各クラスに配信する形で行った。（図 19）。議案書はデータ化され，ロイロノートを活用して，事前に全校生徒で共有する形をとっている（図 20）。各委員長は，画面共有機能を活用して作成したプレゼンテーションを示しながら提案を行い，質疑応答も各教室とスタジオを結んで双方向で行われた。

【図 19　生徒総会（Zoom 配信）の様子】

【図 20　生徒会執行部が作成した提案書（一部）】

②　生徒の発想が生かされ、タブレット端末で活性化する委員会活動

委員会活動において，生徒自身がロイロノートを活用して，お知らせ用のプレゼンテーションを作成し，各クラスの電子黒板に提示して周知をする取組が行われている。

また，以前は紙媒体だった広報委員会作成の学校新聞「伝統の虹」は，現在電子化され，学期に１回，ロイロノートで配付されている。

さらに，各委員会で行われるアンケートについても，ロイロノートが活用されている。アンケート機能を用いて全学年の生徒の意見を集約し，活動に生かしている。

（２）生徒が企画・撮影・編集する協働的な製作活動

① 部活動紹介のビデオ製作

部活動紹介が，体育館で行えなくなったことを踏まえ，各部のキャプテンを中心に，生徒自ら iMovie で「部活動紹介ビデオ」を製作し，各教室の電子黒板に提示してビデオを流す取組を行った。写真の構成や選曲，ナレーションに生徒の主体性が表れていた（図 21）。

【図 21　生徒が製作した部活動紹介ビデオ】

② クラスのＰＶ（プロモーションビデオ）製作と上映会

３年生の体育大会に替わる取り組みの「スポーツデイ」では，生徒の主体的な活動の一環として，ＰＶ（プロモーションビデオ）を製作した。著作権や人権に配慮することを確認しながら，生徒自らがクラスの様子を撮影し，構成を考え，iMovie を使って製作したＰＶは想像を越える出来栄えで，行事を盛り上げる効果を生み出している。スポーツデイ前日には，製作者の言葉も添えて上映会を行った。生徒の主体性を生かした行事となっていった。

この取組は，次年度の体育大会に受け継がれている（図 22-1，2）。

【図 22-1　ＰＶ製作の様子】

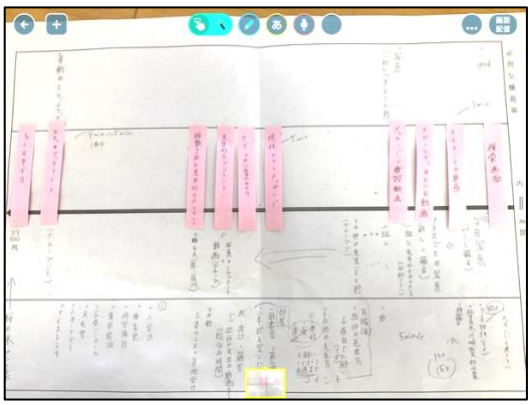
【図 22-2　ＰＶ上映会の様子】

③ 生徒が企画した令和２年度卒業式プロジェクトと卒業式でのムービー上映

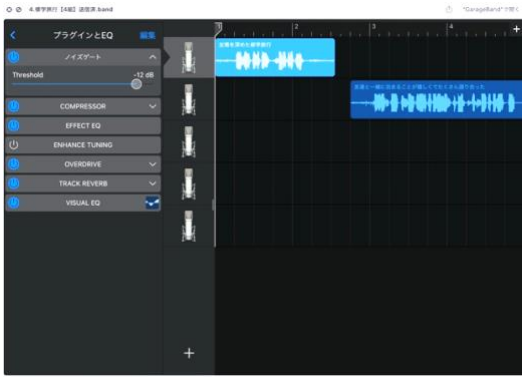
卒業式第２部で全員合唱ができないため，卒業式に向けて，プロジェクト実行委員がムービーづくりを企画した。計画や連絡事項はロイロノートで共有された（図 23-1，2）。実行委員から学年生徒全員への趣旨説明と協力依頼も Zoom を使って行われた。音声担当となった生徒は，学年生徒に協力を依頼して構成詩を録音し，Garageband で編集した（図 23-3）。また，白川中職員からのメッセージをグループに分けて収録し，異動した職員からは Zoom を活用してメッセージを，各クラスの担任に向けた感謝の気持ちを表すメッセージを収録していた。

係それぞれのタブレット端末で編集したデータファイルを，放課後の時間を使って特別教室で編集した（図 23-4）。

【図 23-1　プロジェクト企画会議の様子】



【図 23-2　ロイロで共有された計画】



【図 23-3　構成詩を Garageband で編集】

【図 23-4　iMovie で編集作業】

卒業式の最後に体育館で上映された。ムービーは感動的に仕上がっており，生徒自らが企画し，撮影・編集も自分たちで行った「卒業式プロジェクト」は大成功を収めた。

タブレット端末が生徒の手にある今日，生徒は自らの成長記録を撮影・整理・編集し，自らの力で振り返ることができる。

（3）自らの姿を記録

① 野球部でのタブレット活用

野球部では，雨天時の室内練習の際，バッティングフォームを互いに撮影して確認をしたり，YouTube などでお手本となる動画を見て参考にしたりしている（図 24）。

【図 24　野球部のタブレット活用】

② 女子バスケットボール部でのタブレット活用

女子バスケットボール部では，マネージャーがシュートの本数やランニングのタイムを自主的に Numbers に記録・集計し，選手に伝えることで，選手自身の自覚を促し，次のトレーニングに生かしていた。

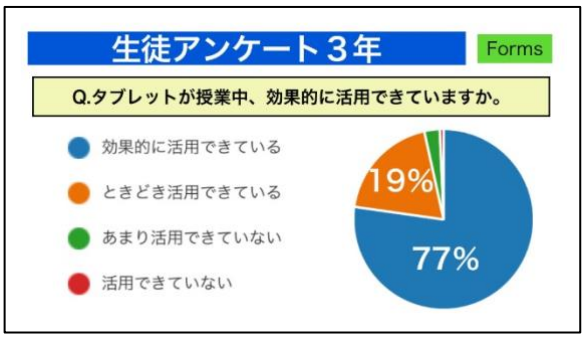
5　研究の成果と課題

（1）研究の成果

視点１　**１人１台タブレット端末を活用しながら，生徒が主体的に学ぶ授業づくり**

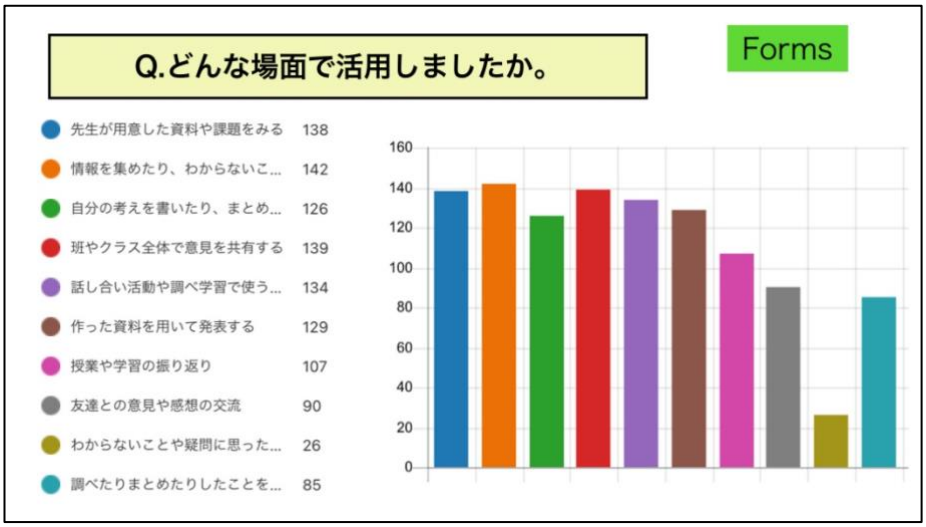
①　生徒のアンケート結果より

アンケートの結果（図 25-1）から生徒は積極的に授業の中でタブレット活用していることがわかる。具体的には「情報を集めたり，わからないことを調べたりすること」「意見の共有」「話し合いに用いる資料の作成」に活用している生徒が多い（図 25-2）。「協働的な学び」や「対話的な学び」において積極的に活用されているといえる。「振り返り」での活用も見られる。



【図 25-１　アンケート結果（3 年）】

また，生徒の記述から，1 人 1 台のタブレット端末の活用により自らの学びを実感し，「主体的に学ぶ力」が育まれていると考えられる。



【図 25-2　アンケート結果（3 年）】

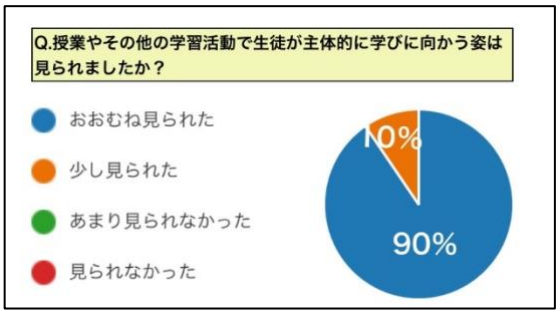
生徒の記述より

・タブレット使うようになって，今までよりもっと，他人の意見も重視するようになったと思います。なぜなら，（ロイロノート）の提出箱の共有をすることで，自分の意見だけでなく，他の人の意見も取り入れるので，自分の考えも深まるのではないかと思いました。（中１）
・自分で考える力がちょっと身についたと思う。今まで他の人に任せっぱなしだったけど，1 人 1 人考えを送る（出す）ようになりました。（中１）
・勉強の幅が広がりました。効率的な調べ方や適した資料を得る力がついてきて，学力の向上に大きくつながっていると感じます。（中２）
・すごくわかりやすくて楽しい授業になっていると思う。私が改めて考えてみて疑問に思ったことなどいっしょになって調べてくれました。みんなが疑問に思ったことを，みんなで調べて考えられるのはとても楽しいです。（中２）
・タブレットを使うようになって，情報選択・資料活用能力の向上につながったと思います。プレゼン資料を作成し，発表する機会が増えたため，思考力や表現力が高まりました。深い学習ができるようになったと思います。（中３）
・わからないことや深く学びたいことをすぐに調べるようになりました。そのとき，よい情報とあまりよくない情報を見分ける力がついたと思います。ほかの人が出した意見も知ることができるので，より様々な観点から物事を見ることができるようになりました。（中３）

②　教職員のアンケート結果より

「めあて・課題設定」「対話」「振り返り」の場面において 1 人 1 台のタブレット端末を活用することで，生徒主体の授業へと変わってきている。アンケート結果から生徒に「主体的に学ぶ」姿が見られるようになってきたことがわかる（図 26）。

また，記述からは，協働して課題を解決したり，意見を出し合ったりすることが多くなり，知識を与えるのでなく，生徒に「学びとらせる」授業への改善が進んでいると言えるであろう。



【図 26　アンケート結果（職員）】

また，生徒一人一人が学習に主体的に参加できるようにタブレットを活用していこうとしていることがわかる。

教職員の記述より

- 知識を受け取る教授型の生徒が多かったが，そこから自分で課題を追究する生徒が増えたような気がする。
- 授業中の課題に沿って生徒自らが調査し，まとめ，発表し合う授業が当たり前になった。生徒は他の生徒や班の成果物や資料をよく見て，参考にしたり，意見を出したりする場面が見られるようになった。
- タブレットを使うことが当たり前になり，学習用具としての活用が向上している。「学びとる」「アウトプット」を意識した授業づくりを受けた活用ができている場面を多く見られるようになった。
- 生徒が生き生きと活動しているように感じる。
- 発表が苦手な生徒も自分の意見を書くことができる。書くことを億劫がる生徒もタブレット上では，書くことに取り組み，表現する様子が見られた。興味あるものを進んで調べたりできるので学習に対して前向きになった。

視点２　１人１台タブレット端末を活用して生徒が主体的に取り組む特別活動の充実

特別活動においては，授業で学習したことを基にしながら，生徒会活動・委員会活動，学級活動，部活動，行事などで積極的に活用されるようになった。「調査」「提案」「振り返り」「改善」の場面において，タブレットを積極的に活用して学びとっている「主体的な学びに向かう姿」と言えよう。生徒の自由な発想は，教師の想像をはるかに超え，集団生活を営む上で主体的に課題を解決していく力となっている。ある程度，生徒に任せることによって，その力は大きく伸ばされていくのではないだろうか。

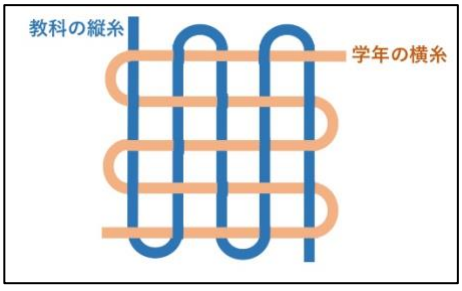
（２）授業実践や取組より

協働的な学びの中で，1 人 1 台のタブレット端末を活用することによって生徒の学びは大きく広がることを実感した。ある生徒は「端末があると理解が進み、試験前の振り返りに便利」（熊本日日新聞，2021，11）と述べている。また、今まで表現することが苦手だった生徒も，タブレット端末を使い，図を操作したり，意見を述べたりすることで，以前より主体的な学習を行っている。「学びとる」学習活動を通して，自ら課題を見出し，仲間と協働しながら，情報を収集したり対話したりしながら解決に向かおうとしている姿や自らの学びを振り返り，学びを実感し，次の学習に生かしていこうとしている姿が，実践の中で見られたことは成果と言えよう。

（３）教師集団としての学び合い

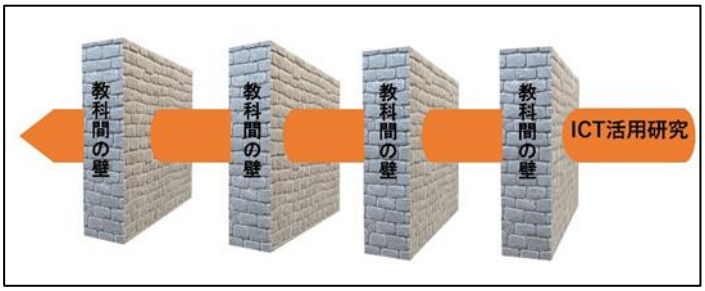
１人１台のタブレット端末の活用推進の研究を進めるにあたって，オンライン授業をきっかけに職員の協力体制ができあがっていった。初めてのオンライン授業は誰もが経験したことのないことであって，生徒の学びを継続させたいという強い思いで作り上げていったものである。そこでは，教科としての縦のつながり，学年としての横のつながりが糸となって紡がれていったことが大きい（図 27）。

最初はタブレット端末を使うことに抵抗があった先生も授業で活用できるようになっていった。



【図 27　職員間のつながりのイメージ】

中学校は教科の壁があると言われることがあるが,「タブレット端末を生徒主体の授業に活用していく。」という共通意識が教科の壁を越えて（図 28）, 教師間でも互いに主体的に学び合う姿が実現された。



【図 28　教科間の壁を貫く ICT の活用】

（4）研究の課題

各教科, 特別活動などで実践を積み上げてきた。本実践ではタブレット端末を活用した「対話」を中心に研究実践が進んだ。「課題設定」や「振り返り」をもっと充実させていけば、生徒が主体的に学びに向かう力は伸びていくのではないだろうか。今後も教科の枠を越えて, 日頃の授業におけるタブレット端末の活用法を共有し, 生徒が「学びとる」, 生徒主体の授業になっているか見直していく必要があるだろう。協働的に学び合うため, タブレット端末のよさを生かしながら, 子どもたちが主体的に学びに向かえるような授業づくりを進めていかなければならない。

（5）おわりに

突然のオンライン授業, 分散登校, タブレットの導入。生徒のみならず私たち教師にとっても新しい学びの連続である。しかし, どんなときも, 私たちは, 協働して考え, 議論し, 工夫して解決へ歩みを進めてきた。まさに,「主体的・対話的深い学び」であり,「学びとる」活動である。教師の学びを楽しむ姿は必ず生徒に伝わっているはずだ。オンライン授業で悩んだが, ともに考え, 創り出す日々は楽しかった。生徒にも学ぶ喜び, 楽しさを味わってほしい。そう感じとれる生徒が主体的に学びに向かうような学習活動を今後も構築していきたい。

〈参考文献〉

・文部科学省　中学校学習指導要領
・前田康裕　「まんがで知る　未来への学び」①～③　　さくら社　2019
・前田康裕　「まんがで知る　デジタルの学び　ICT 教育のベースにあるもの」　さくら社　2022
・熊本市教育委員会指導課
「令和版　学びわくわく熊本市の授業づくり教職員向けルーフレット」